

公益社団法人日本オーケストラ連盟 第 12 期
2023 年度(令和 5 年度)事業報告・収支決算書

自：2023 年 4 月 1 日

至：2024 年 3 月 31 日

公益社団法人 日本オーケストラ連盟

2. 交響楽振興のための公演及び講習会等の開催

(1) 「オーケストラの日 2024」の実施

オーケストラの普及、浸透を図るため3月31日を「オーケストラの日」として、例年この日を中心にその前後で加盟するオーケストラが多彩な催しを行っている。

- ① 首都圏では、新型コロナウイルスの感染拡大により、2019年度から2021年度は中止、またはオンライン配信となったが、昨年度の4年ぶりの実開催に引き続き2024年3月31日（日）に東京文化会館大ホールにおいてオーケストラコンサート、小ホールではトーク付きの室内楽コンサートを開催した。
- さらに、大ホールロビーでは「オーケストラ広場」と銘打って、参加オーケストラがそれぞれブースを設け、PR活動を展開した。
- オーケストラ公演では、N響、神奈川フィル、新日本フィル、東響、都響、東京シティ・フィル、東京フィル、日本フィル、読響、パシフィックフィル、千葉響、藝大フィル、ユニバーサル・フィル、富士山静岡交響楽団がメンバーを出し合って、「オーケストラの日祝祭管弦楽団」としてこの日だけのオーケストラを結成、梅田俊明氏の指揮により、平和への願いと故郷への思いをテーマにコンサートを行った。（コンサートマスター：戸澤哲夫／東京シティ・フィル、司会：江原陽子）

主催：首都圏オーケストラの日実行委員会、日本オーケストラ連盟、東京・春・音楽祭実行委員会

助成：公益財団法人朝日新聞文化財団、公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団、公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

協力：日本音楽財団（日本財団助成事業）

入場者数：2,186人（チケット販売数2,249枚）

- ② 地方オーケストラは13の楽団が室内楽を含め、独自の演奏会を実施し、オーケストラの演奏や生の音楽に触れる機会を設けた。

(2) 文化庁からの委託による「アジア オーケストラ ウィーク 2023」を制作

今年で21回目を数えるアジア オーケストラ ウィークは、文化庁芸術祭主催公演として海外のオーケストラを招聘しての公演と国内のオーケストラによる公演を行っている。2023年度は、トルコと韓国からオーケストラを招聘、国内は千葉交響楽団により開催した。プログラムも、アジアを意識した作品なども取り入れたものとした。コンサートの模様は、配信も行い、より多くの人々にもアジア オーケストラ ウィークに触れる機会を提供した。

<会場：東京オペラシティコンサートホール>

10月5日（木）千葉交響楽団 入場者数：774人

10月6日（金）イスタンブール国立交響楽団 入場者数：1,107人

10月7日（土）韓国チェンバー・オーケストラ 入場者数：750人

総入場者数 2,631名 配信による視聴数 81万回

(3) オーケストラ連盟 30周年記念事業の検討

創立 30周年を迎える連盟の記念事業の当該年度は 2020 年度であったが、新型コロナウイルス感染の影響から実施を見送って以降、継続検討となっていたが、35周年にあたる 2025 年に記念事業として開催することとなり、加盟団体の若手スタッフを中心とした小委員会を結成し、事業の内容について検討を始めている。

(4) 講習会、セミナーの開催

来日したノルウェーの名門オーケストラ、オスロ・フィルの制作責任者、芸術部門の責任者を招き、オーケストラの財務状況、国からの助成の仕組み、ヨーロッパ地域での活動の実態などをテーマにプレゼンを依頼した。首都圏の加盟団体を中心に約 50 名が参加し、活発な意見が交わされた。

・10月23日（月）AP 品川アネックス

(5) インターンシップの推進

例年、日本オーケストラ連盟が窓口となり、音楽大学、一般大学のアートマネジメントに関心のある学生を公募し、受け入れ可能な加盟オーケストラで研修を実施した。

本年度は例年に比較して地方大学からの参加、男子学生の参加が多かった。

応募人数／16名の内 12名が参加。受け入れオーケストラ 12 楽団

(6) その他の活動

① 令和 4 年度補正予算 文化芸術振興費補助金 統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業（アートキャラバン 2）の実施

開催日：2023 年 4 月 6 日（木）～ 2024 年 1 月 28 日（日）

会 場：全国（北海道～九州）

内 容：加盟オーケストラ 32 団体がフルオーケストラにより全国で 102 公演を実施

※今年度の本事業は、文化庁の経費計算方法の変更により、日本オーケストラ連盟が全公演を主催し、加盟オーケストラに演奏を委託する形式をとった。

②令和 5 年度 文化芸術振興費補助金舞台芸術等総合支援事業（キャラバン）の実施

開催日・開催地： 2023 年 8 月 20 日（日） 静岡県静岡市

2023 年 10 月 1 日（日） 鳥取県米子市

2024 年 1 月 8 日（月・祝）福島県福島市

内 容：加盟オーケストラ 3 団体によるオーケストラ公演

※本事業は、コロナ禍からの芸術鑑賞機会の創出と実演芸術団体の活動機会の確保を目的とした補正予算によるキャラバンのベースとなる考え方を踏襲し、コロナ禍以降に通常予算の中で地域の文化振興を目的とした事業として文化庁が取り組むもの。

- ③ 文化芸術による子供育成推進事業 舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）事務局への協力
オーケストラ公演を含むさまざまなジャンルのトップレベルの団体による実演芸術を、全国の学校の体育館等に出向いて行う事業で、公演とは別に事前ワークショップ等を併せて行う。日本オーケストラ連盟は本事業の事務局に協力し、加盟団体との日程調整、配布物の内容確認、精算業務等をおこなった。（全国 199 校で実施）
- ④ アフィニス文化財団が開催する「アフィニス夏の音楽祭 2023 Nagaoka」に協力
公益財団法人アフィニス文化財団による国内プロオーケストラ・メンバーのためのセミナー音楽祭「アフィニス夏の音楽祭 2023 Nagaoka」（新潟県長岡市）に協力した。

3. 青少年に対する交響楽の普及

(1) 復興支援演奏会の実施

今年度は実施していないが、2024 年年初に発生した能登半島地震のための活用を加盟団体に呼び掛けた。

被災地の状況から、今年度は演奏家の派遣は見送ったが、今後の派遣について、文化庁の担当部署と意見交換を行い、加盟団体による取り組みの方向性を検討している。

(2) 東京都が主催する「子供たちと芸術家の出会う街」の制作に協力

東京都が開催しているこども向けイベントに、連盟理事長が実行委員長、連盟事務局は実行委員として参加。

加盟団体の新日本フィルによるホール公演や事前のアウトリーチ、ホール内の各部屋を利用したワークショップ等が行われた。

日時・会場：2024 年 3 月 24 日（日）東京芸術劇場

企画・演奏：新日本フィルハーモニー交響楽団

事前アウトリーチ	参加人数：565 名
当日ワークショップ、無料イベント	参加人数：460 名
オーケストラ演奏会	参加人数：1,280 名
	<u>合計：2,305 名</u>

会議への参加：2023 年 5 月 29 日（月）、10 月 25 日（水）、2024 年 3 月 19 日（火）

4. 交響楽に関する国際交流

(1) ポーランドでのオーケストラ国際会議への参加

2023年9月6日（水）から8日（金）にかけて、ポーランド・ブロッツワフ市で開催された国際会議「Orchestras NOW! Future Proof」に連盟事務局より沖汐明日香が参加。26か国から約200名が集結し、コロナ禍を経て見えてきた社会の傾向や聴衆層の変化、コミュニティ活動や気候変動対策の重要性、ウクライナ問題などが議論された。オーケストラをはじめとする舞台芸術分野の連盟同士による会議も現地で行われ、リーグ・オブ・アメリカン・オーケストラズ（米国版オーケストラ連盟）や英国オーケストラ連盟を含む、8か国から11団体、計15名が参加した。参加者同士の交流も図られ、参加団体間相互の関係を強固なものとした。

(2) フィンランドオーケストラ連盟との情報交換

10月3日（火）、12月5日（火）、2024年2月15日（木）の計3回に渡りフィンランドオーケストラ連盟とのオンライン会議を実施。各連盟の活動紹介をはじめ、オーケストラに対する経済的支援状況や芸術団体に対する法的支援についての意見交換を行った。

5. その他目的を達成するために必要な事業

(1) 「日本オーケストラ連盟ニュース」の発行（3回）

オーケストラに関する特集記事、音楽界のトピックスや各種情報などを伝えるほか、加盟するオーケストラの主催公演を一覧表示。コンサートガイドの役割も果たし、単なる機関紙としてではなく調査、資料収集等で得られた知見、情報も掲載した。

7月第111号、12月第112号、3月第113号 発行部数 各 6,000部 そのほかHPにおいても公開。

(2) 「日本のオーケストラ」作成

この年度は発刊しなかった。

(3) 他の芸術団体等との連携

芸術家会議、日本芸能実演家団体協議会（芸団協）、文化芸術推進フォーラムの一員として他の芸術団体や「劇場・音楽堂等協議会」などとも連携を図り、健全な文化芸術活動やオーケストラ運営ができる環境整備と充実に努めた。

6. その他の事業

(1) 著作権代行事業

一般社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）との協定による、加盟オーケストラの使用する管理著作物の包括的申請と使用料の一括徴収と支払業務を実施した。

(2) 共同広告事業

本年度は実施しなかった。

(3) 互助会事業

病気や怪我で3ヶ月以上活動できない、連盟加盟の楽団に所属する楽員・職員への無利息による貸付制度。本制度の利用を促した。

会議の開催

○理事会 2023年度 計4回

第1回	2023年5月23日(火)	実開催およびWebによるリモート会議で実施
臨時	2023年6月15日(木)	実開催およびWebによるリモート会議で実施
第2回	2024年3月11日(月)	決議の省略による
第3回	2024年3月27日(水)	実開催およびWebによるリモート会議で実施

○総会 2023年度 計2回

定時総会	2023年6月19日(月)	機械振興会館
臨時総会	2024年3月25日(月)	決議の省略による

○運営委員会 第256回 ~ 第263回 計8回

4月28日(金)、7月25日(火)、9月21日(木)、10月26日(木)、
11月28日(火)、12月21日(木)、1月30日(火)、2月27日(火)
Webによるリモート会議で実施(1月30日のみ実開催)

運営委員(13名):

佐藤 隆文	理事長
金山 茂人	副理事長
西濱 秀樹	専務理事、山形交響楽団 専務理事
望月 正樹	専務理事
竹内 淳	常務理事・事務局長
月東 靖詞	名古屋フィルハーモニー交響楽団 専務理事
志田 明子	東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 代表理事・楽団長
関谷 篤弘	読売日本交響楽団 常任理事・事務局長
床坊 剛	オーケストラ・アンサンブル金沢 ゼネラル・マネージャー
長岡 大地	新日本フィルハーモニー交響楽団 総務部
福山 修	大阪フィルハーモニー交響楽団 事務局長
小田 弦也	日本センチュリー交響楽団 専務理事
上野 喜浩	群馬交響楽団 音楽主幹

2024年3月31日現在

- 地方オーケストラ連絡会／首都圏オーケストラ連絡会「合同会議」
8月23日(水)～24日(木) ハイブ長岡(新潟県長岡市)
- 首都圏オーケストラ連絡会 第458回～第465回 計8回
4月27日(木)、5月30日(火)、7月31日(月)、9月20日(水)、
10月23日(月)、11月21日(火)、12月20日(水)、1月30日(火)
Webによるリモート会議で実施(1月30日のみ実開催)
- 地方オーケストラ連絡会 計2回
4月10日(月)～11日(火) 札幌コンサートホール KITARA、札幌市市民交流プラザ HITARU
8月24日(木) ハイブ長岡(新潟県長岡市)
- 首都圏「オーケストラの日」実行委員会 計1回
2024年2月20日(火) 日本オーケストラ連盟事務局
- 「子どものためのオーケストラ検証」プロジェクト委員会の開催 計2回
2023年4月26日(水)、2024年3月8日(金)

外部の委員会・協議会等への協力

- 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会(以下、「芸団協」)の監事として金山茂人／副理事長、理事として桑原浩／専務理事が参加した。
- 公益社団法人日本演奏連盟常任理事として吉井実行／参与が参加した。
- 公益財団法人音楽文化創造評議員として桑原浩／専務理事が参加した。
- 芸術家会議の常任幹事として桑原浩／専務理事が参加した。
- 芸団協「実演芸術振興委員会」委員として桑原浩／専務理事が参加した。
- 公益財団法人公益法人協会評議員として桑原浩／専務理事が参加した。
- 「文化芸術推進フォーラム」運営委員として桑原浩／専務理事が参加した。
- 公益財団法人アフィニス文化財団の理事として桑原浩／専務理事が参加した。
- 演奏家権利処理合同機構(MPN)の「クラシック委員会」委員として工藤真実／東京フィルハーモニー交響楽団常務理事・事務局長、竹内淳／常務理事が参加した。
- アジア・太平洋地域オーケストラ連盟の事務局長を名倉真紀／マネージャーが務めた。
- 全国公立文化施設協会のコーディネーターを竹内淳／常務理事が務めた。

関係団体との連携、協力

芸団協、芸術家会議、文化芸術推進フォーラム、日本音楽芸術マネジメント学会、公益財団法人公益法人協会の会員、構成団体として参加している。

庶務の概要

会員に関する事項

正会員	準会員	賛助会員	名誉会員
25	15	法人 9 個人 0	0

2023 年度 事業報告の附属明細書

2023 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。